

更なる設備投資を推し進め  
世界のエネルギー需要に対応  
— 営業利益300億円を目指して —

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 永田昌久

2007年5月24日

ホームページURL: <http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先: 経営管理部

総務統括部長 渡邊久郎

TEL: 042-330-8003 FAX: 042-330-8018

# 第1部 07. 3期決算説明

# (1)07. 3期決算

## 1. 連結損益の状況

前年に続き過去最高経常利益を更新

(単位:億円)

	06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
売上高	1,734	1,980	2,071	104.6 %	119.4 %
連単倍率	1.19 倍	1.19 倍	1.17 倍	98.0 %	98.0 %
営業利益 (率)	129 7.4 %	206 6.0 %	247 11.9 %	119.9 %	191.5 %
経常利益	118	198	235	118.7 %	199.2 %
当期純利益	66	110	125	113.6 %	189.4 %
一株当たり 当期純利益	17.57 円	29.62 円	33.96 円	114.7 %	202.0 %

## 2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
売上高	1,456	1,720	1,775	103.2 %	121.9 %
営業利益 (率)	107 7.3 %	190 5.7 %	228 12.8 %	120.0 %	213.1 %
経常利益	102	188	219	116.5 %	214.7 %
当期純利益	60	107	122	114.0 %	203.3 %
一株当たり 当期純利益	16.07 円	28.82 円	32.95 円	114.3 %	205.0 %

記念配当	—	—	3 円	3 円	3 円
一株当配当金	5 円	6 円	6 円	0 円	1 円

創立100周年に当たり、3円の記念配当を予定

## (2) 事業別連結売上高・営業利益の状況

(単位: 億円)

		06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品	売上高	644	740	763	103.1 %	118.5 %
	営業利益	76	123	140	113.8 %	184.2 %
機械製品	売上高	1,069	1,209	1,278	105.7 %	119.6 %
	営業利益	98	129	154	119.4 %	157.1 %
地域開発	売上高	21	31	30	96.8 %	142.9 %
	営業利益	8	9	9	100.0 %	112.5 %
消去又は配分不能費用		△ 53	△ 55	△ 56	101.8 %	105.7 %
合計	売上高	1,734	1,980	2,071	104.6 %	119.4 %
	営業利益	129	206	247	119.9 %	191.5 %

### 07. 3期のレビュー

#### ①鉄鋼製品関連事業

火力・原子力発電用部材、淡水化プラント・ケミカルタンカー用クラッド鋼板、天然ガス田用クラッド鋼管、電子材料用素材の売上増加、増産効果、コスト削減効果、高止まりの原材料価格を反映した製品代価の是正により前期比増収増益。

#### ②機械製品関連事業

造粒機・押出機などの樹脂製造機械のほか、レーザアニール装置、マグネシウム合金射出成形機などのIT関連機器の売上が増加。増産効果、コスト削減効果、部品価格高止まりを反映した製品価格の是正により前期比増収増益。

#### ③地域開発関連事業

分譲事業の売上があったため、前期比増収。

# (3) 事業別連結受注高の状況

火力・原子力発電用部材、北米向け圧力容器、クラッド鋼板・鋼管が好調に推移

(単位: 億円)

		06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品	受注高	1,053	899	1,028	114.3 %	97.6 %
機械製品	受注高	1,193	1,120	1,241	110.8 %	104.0 %
地域開発	受注高	31	21	20	95.2 %	64.5 %
合計		2,277	2,040	2,289	112.2 %	100.5 %

クウェート向け圧力容器、サウジアラビア向け造粒機等の大型案件により大幅伸長

07.3当初計画は1,780億円  
(当初計画比**509億円増加**)

樹脂製造機械が中国向けを中心に増加。IT関連機器も好調に推移

# (4) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

中国向け火力(ローターシャフト等)の伸長

(単位:億円)

		06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)
鉄鋼製品 関連	鋳鍛鋼部門	313	386	402	104.1%	128.4%
	鋼板・鉄構部門	293	320	332	103.8%	113.3%
	(単体部門計)	606	706	734	104.0%	121.1%
	連結会社他	38	34	29	85.3%	76.3%
	連結売上高	644	740	763	103.1%	118.5%
営業利益		76	123	140	113.8%	184.2%

短納期品のクラッド鋼板が増加

重油価格及びモリブデン等原材料価格の値上がり速度が一旦緩んだことに加え、売上の増加により前期比増加

造粒機が大幅に増加、自動車・薄型テレビ用の大型射出成形機が堅調に推移

(単位:億円)

		06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(B)	対前年 実績比 (C)/(A)	
機械製品 関連	樹脂機械部門	476	560	547	97.7%	114.9%	
	その他機械部門	358	427	466	109.1%	130.2%	
	(単体部門計)	834	987	1,013	102.6%	121.5%	
	連結会社他	(IT関連)	97	84	103	122.6%	106.2%
		(その他)	138	138	162	117.4%	117.4%
	連結売上高		1,069	1,209	1,278	105.7%	119.6%
営業利益		98	129	154	119.4%	157.1%	

# (5) 連結セグメント別の業績(受注高)

中国・欧米向け火力・原子力製品の伸長

(単位: 億円)

		06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(A)	対前年 実績比 (C)/(B)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	398	430	503	117.0%	126.4%
	鋼板・鉄構部門	617	435	494	113.6%	80.1%
	(単体部門計)	1,015	865	997	115.3%	98.2%
	連結会社他	38	34	31	91.2%	81.6%
	連結受注高	1,053	899	1,028	114.3%	97.6%

輸出向け化学プラント・淡水化プラント用クラッド鋼板は堅調に推移

小型・中型射出成形機が中国向けを中心に減少したものの、造粒機は中国向けに増加

(単位: 億円)

		06.3 実績 (A)	07.3 前回予想 (B)	07.3 実績 (C)	対前回 予想比 (C)/(A)	対前年 実績比 (C)/(B)
機械製品関連	樹脂機械部門	577	520	577	111.0%	100.0%
	その他機械部門	385	398	429	107.8%	111.4%
	(単体部門計)	962	918	1,007	109.7%	104.7%
	連結会社他	231	202	234	115.8%	101.3%
	連結受注高	1,193	1,120	1,241	110.8%	104.0%

レーザーアニール装置が台湾・韓国向けに増加したほか、中国での携帯電話マグネシウム化が進展

# (6) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	06.3 実績 (A)	07.3 前回予想	07.3 実績 (B)	対前年実績 差異 (B)-(A)
流動資産	1,221	1,387	1,478	257
固定資産	746	805	833	87
資産合計	1,967	2,192	2,324	357

(単位:億円)

	06.3 実績 (C)	07.3 前回予想	07.3 実績 (D)	対前年実績 差異 (D)-(C)
流動負債	894	1,105	1,219	325
固定負債	411	354	349	△ 62
純資産	659	733	756	97
負債及び純資 産合計	1,967	2,192	2,324	357

自己資本比率	33.5	33.4	32.4	△ 1.1
1株当り純資産	177.2	199.2	203.2	26.0

(単位:億円)

	06.3実績 (A)	07.3前回予想	07.3実績 (B)	対前年実績差異 (B)-(A)
営業活動 キャッシュフロー	128	183	356	228
圧縮資産売却に係わる 納税額	△ 69	-	-	69
投資活動 キャッシュフロー	△ 65	△ 78	△ 97	△ 32
計	△ 6	105	259	265
財務活動 キャッシュフロー	△ 53	△ 128	△ 167	△ 114
現金及び現金同等物の 期末残高	182	220	275	93

利益の増加と運転資金の効率化により大幅改善

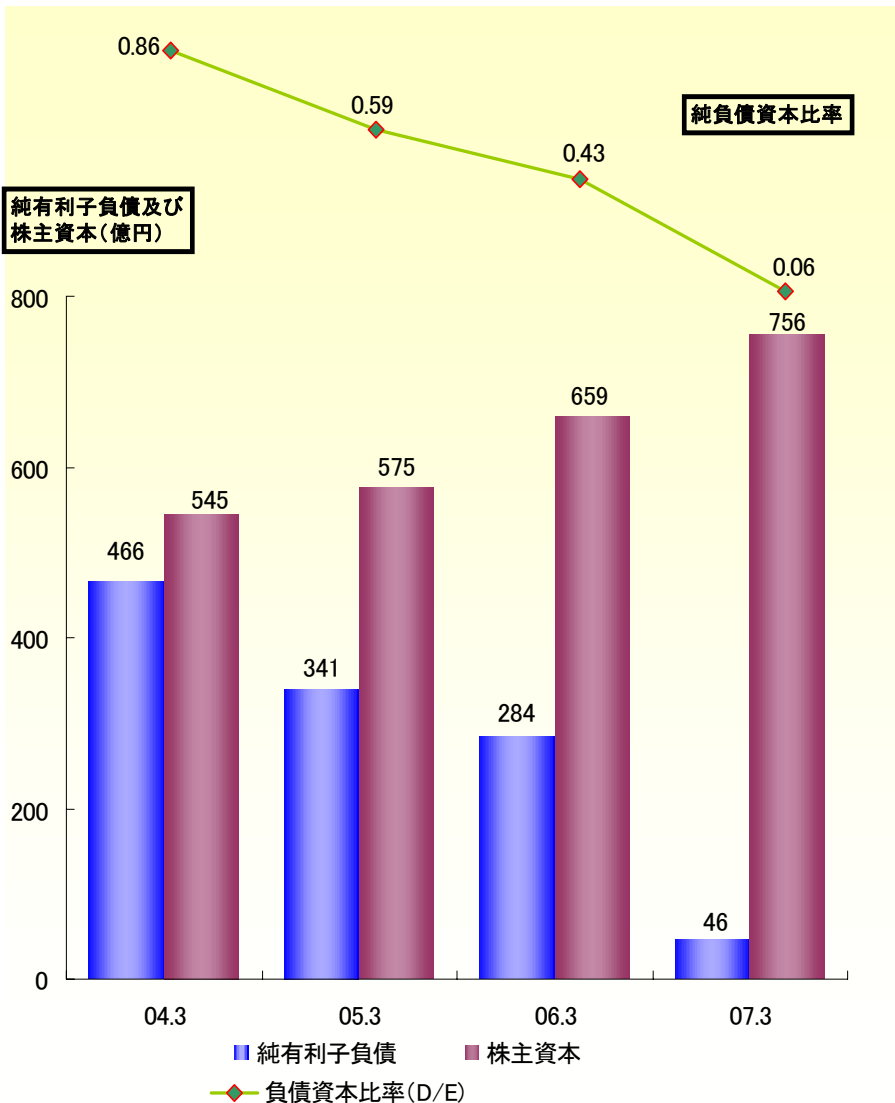


# (7) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)

○07. 3期の有利子負債残高は前期末比148億円減少し321億円となる

○純資産は利益の増加により、前期比98億円増加し756億円となる

○07. 3期の純負債資本比率(D/E)は0.06倍



	期末	04.3	05.3	06.3実績	07.3前回	07.3実績
キャッシュフロー対有利子負債比率(倍)		7.5	7.0	8.0	2.0	0.9
インタレストカバレッジレシオ(倍)		7.3	6.9	7.1	22.4	72.5
有利子負債EBITDA倍率(倍)		5.6	4.4	2.8	1.4	1.1

(単位:億円)

有利子負債(A)	621	510	469	360	321
現預金残高(B)	155	69 169	185	220	275
純有利子負債(A)-(B)	466	341	284	140	46

## 第2部 改定中期経営計画(J2008改)と 08.3期及び09.3期予想

# (1) 改定中期経営計画の概要

○名称: 改定中期経営計画(J2008改)

○実施期間: 08.3期(2007年度)及び09.3期(2008年度)の2年間

○主な狙い: 技術経営の推進を通じて、全てのステークホルダーに満足・信頼いただき、「経済的価値」の向上と同時に「社会的価値」を高め、企業価値の最大化を目指す

創業100周年、次の100年へ向けて更なる飛躍を  
1907年(明治40年)創立  
2007年(平成19年)100周年

ビジョン: 変化創造企業  
「独創技術で変化を創り出し社会の発展に貢献する企業」

## (2) 経営理念・基本方針・行動基準

### 経営理念

顧客に驚きと感動を  
与え続ける

社会との共生を図り、  
継続的に利益を実現  
する

変わり続ける意識を  
持つ

### 基本方針

- ①顧客満足重視の経営
- ②技術経営の推進
- ③新規事業の開拓
- ④企業倫理の遵守
- ⑤安全の確保
- ⑥環境保全活動の推進
- ⑦人材の育成

### 行動基準

- ①信頼される製品・技術・サービスの提供
- ②倫理・法令の遵守
- ③公正・透明な事業活動
- ④国際社会のルール尊重、環境の保護
- ⑤反社会的勢力との対決
- ⑥企業情報の開示
- ⑦従業員を尊重、安全で良好な職場環境の確保
- ⑧経営トップによる問題解決、厳正処分

## (3) 重点目標と数値目標

### ○重点目標

- ①業容の拡大    ②資産効率の向上    ③CSRの推進

### ○数値目標 (08.3期から減価償却方法を変更)

- ①売上高: 2,350億円以上 (連結)、2,050億円以上 (単体)
- ②経常利益: 275億円以上 (連結)  
(償却方法等変更前では310億円)  
260億円以上 (単体)
- ③純有利子負債: 170億円以下 (単体)
- ④総資本経常利益率 (ROA): 11%以上 (単体)

# (4) 重点目標 ー 業容の拡大 ー

事業を3区分とした事業運営により収益力の向上、事業・収益拡大を目指す

収益力向上

事業・収益  
拡大

既存事業	鋳鍛鋼事業 鋼板・鉄構事業 樹脂機械事業
拡大事業	IT関連事業 風力発電事業 マグネシウム関連事業
新規製品・新規事業	新エネルギー 環境、情報通信 ナノテク・材料 新製造技術

- ・オンリーワン製品・技術に見合う収益の確保
- ・効率的な組織運営と生産拠点の適正化
- ・次期新製品の開発加速化
- ・製品ラインナップの充実による新規顧客の拡大、応用製品市場の拡大
- ・新規製品・新規事業の創出
- ・重点分野に特化した全社的事業化推進

技術経営の推進

営業力の強化

システム化の推進・サービス力強化

アライアンス・M&Aの推進

人材育成／技術・技能の伝承

設備投資の強化

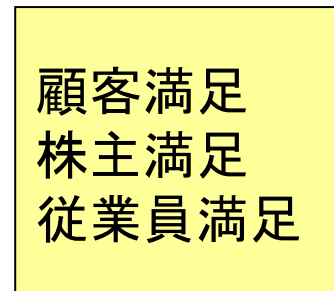
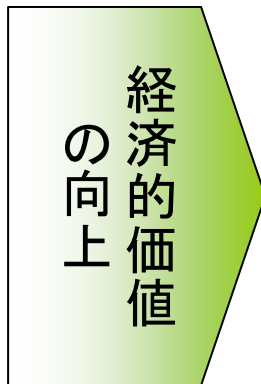
# (5) 重点目標 -CSRの推進-

## CSR基本方針

- ・法令・企業倫理の遵守等に加え、**高い品質の製品を安定的に供給**し続け社会の発展に貢献することも当社の責任と考えた幅広い活動を実行する。
- ・顧客・株主・従業員・地域社会等の全ての利害関係者の満足、信頼をかちとる。
- ・地球環境保護に徹した製品の開発を進める。



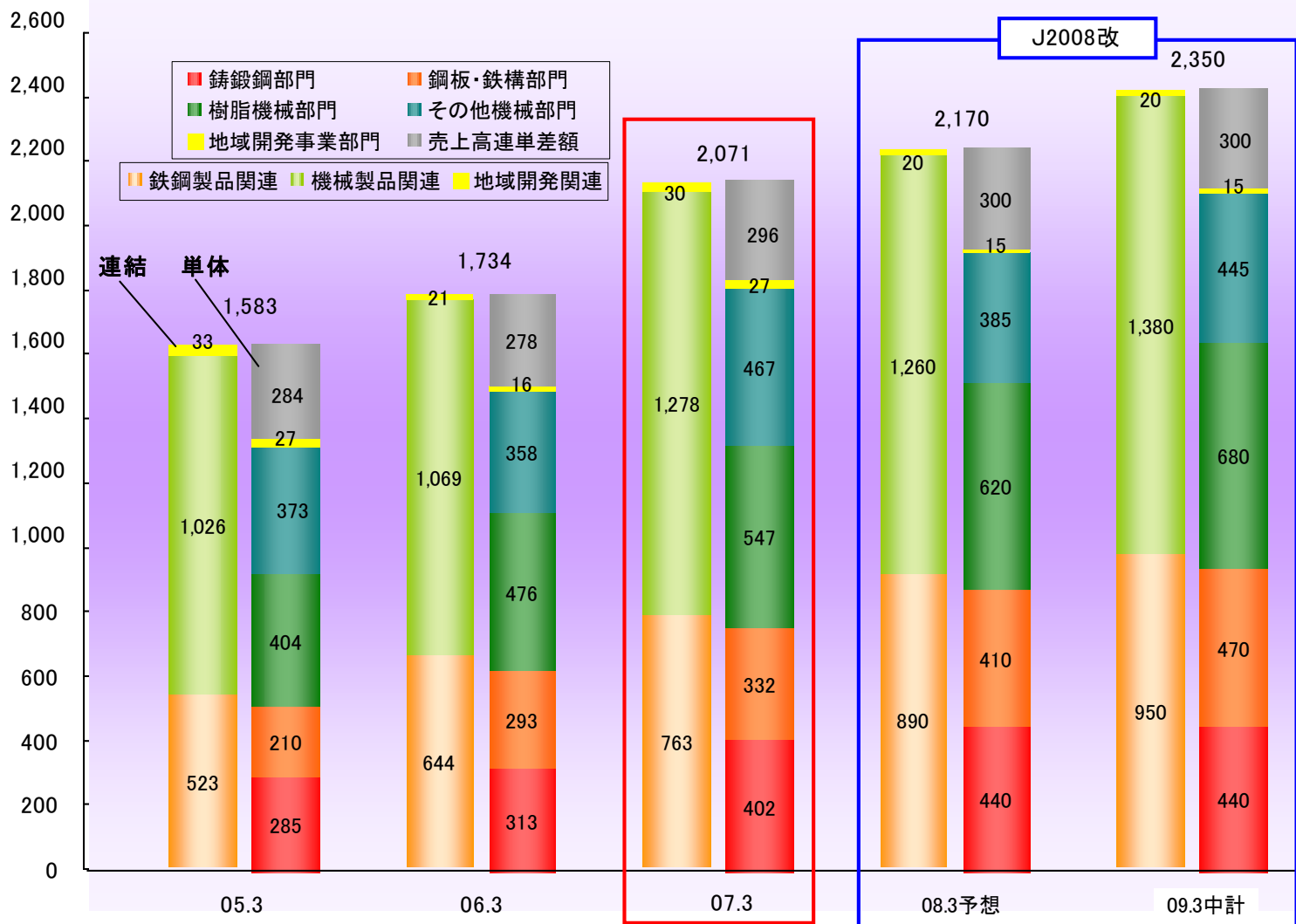
- ①高品質製品の安定供給
- ②顧客満足重視の経営
- ③企業倫理の遵守
- ④安全の確保
- ⑤内部統制システム  
の整備推進
- ⑥環境保全活動の推進



# (6)05. 3期からの推移と改定中期経営計画(売上高)

—09. 3期は07. 3期比13%増を計画—

単位: 億円





# (7) 減価償却費の増加と損益への影響

## －残存簿価償却と減価償却方法変更－

### 1. 減価償却制度の変更

- ・H19年度税制改正により残存簿価5%→0
- ・07.3期償却済資産残高30億円→08.3期～12.3期に償却(▲6億円/年)

### 2. 減価償却方法の変更

- ・定額法→定率法に変更(建物及び付帯設備を除く)

(目的) 投下資金の早期回収による環境変化への対応力向上と

節税効果によるキャッシュフローの改善

- ・償却方法変更による影響額(07.3期末現在)→08.3期: ▲18億円

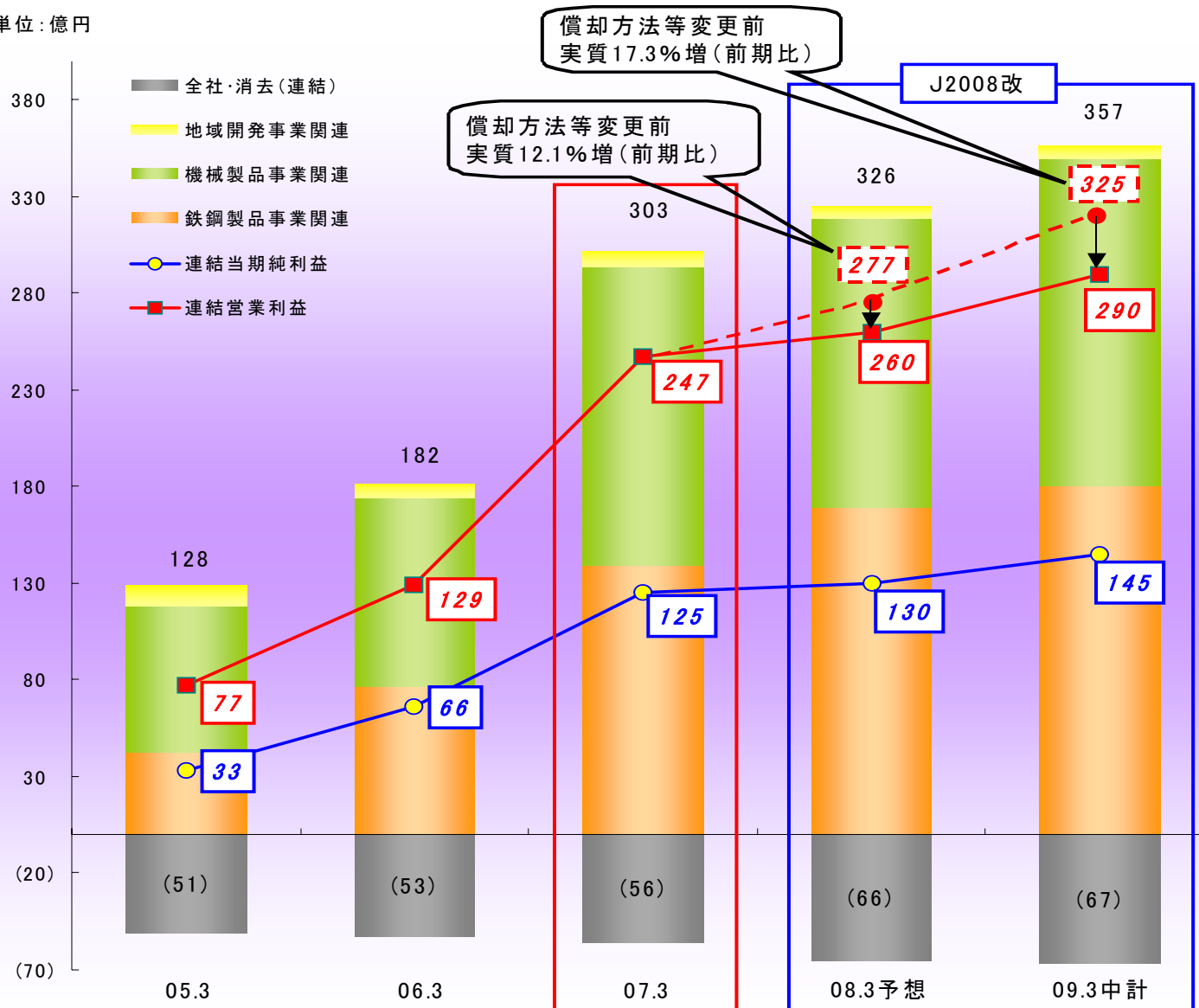


08.3期営業利益への影響は▲17億円

# (8)05. 3期からの推移と改定中期経営計画

－09. 3期は営業利益290億円超を計画－（営業利益・当期純利益）

単位：億円



# (9)08. 3期及び09. 3期 業績予想

## 1. 連結損益の状況

前期に引き続き経常利益の過去最高益を見込む

(単位:億円)

	06.3 実績	07.3 実績 (A)	08.3 予想 (B)	09.3 中計	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高	1,734	2,071	2,170	2,350	104.8 %
連単倍率	1.19 倍	1.17 倍	1.16 倍	1.15 倍	0.99 倍
営業利益 (率)	129 7.4 %	247 11.9 %	260 12.0 %	290 12.3 %	105.3 %
経常利益	118	235	250	275	106.4 %
当期純利益	66	125	130	145	103.1 %
一株当たり 当期純利益	17.57 円	33.96 円	35.01 円	39.05 円	103.1 %

## 2. 単体損益の状況

	06.3 実績	07.3 実績 (A)	08.3 予想 (B)	09.3 中計	対前年 実績比 (B)/(A)
売上高	1,456	1,775	1,870	2,050	105.4 %
営業利益 (率)	107 7.3 %	228 12.8 %	240 12.8 %	270 13.2 %	105.3 %
経常利益	102	219	235	260	107.3 %
当期純利益	60	122	125	140	102.2 %
一株当たり 当期純利益	16.07 円	32.95 円	33.67 円	37.71 円	102.2 %

記念配当	—	3 円	—	—
一株当たり配当金	5 円	6 円	7 円	未定

# (10)08. 3期及び09. 3期

## 事業別連結売上高・営業利益の状況

火力・原子力発電用部材、クラッド鋼板、圧力容器が増加

(単位: 億円)

		06.3 実績	07.3 実績 (A)	08.3 予想 (B)	09.3 中計	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品	売上高	644	763	890	950	116.6 %
	営業利益	76	140	169	180	120.7 %
機械製品	売上高	1,069	1,278	1,260	1,380	98.6 %
	営業利益	98	154	150	170	97.4 %
地域開発	売上高	21	30	20	20	66.7 %
	営業利益	8	9	7	7	77.8 %
消去又は配分不能費用		△ 53	△ 56	△ 66	△ 67	117.9 %
合計	売上高	1,734	2,071	2,170	2,350	104.8 %
	営業利益	129	247	260	290	105.3 %

樹脂製造機械は好調に推移するも、防衛関連機器の減少を見込む

# (11)08. 3期 連結セグメント別の業績予想

## (売上高・営業利益・受注高)

(単位: 億円)

売上高・営業利益		07.3 実績 (A)	08.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	402	440	109.5%
	鋼板・鉄構部門	332	410	123.5%
	(単体部門計)	734	850	115.8%
	連結会社他	29	40	137.9%
	連結売上高	763	890	116.6%
営業利益		140	169	120.7%

製鋼原料価格の高騰を見込むも、売上増加により前期比29億円の増益

受注高		07.3 実績 (C)	08.3 予想 (D)	対前年 実績比 (D)/(C)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	502	460	91.6%
	鋼板・鉄構部門	494	500	101.2%
	(単体部門計)	996	960	96.4%
	連結会社他	32	40	125.0%
	連結売上高	1,028	1,000	97.3%

中国向けを中心に造粒機の好調を見込む

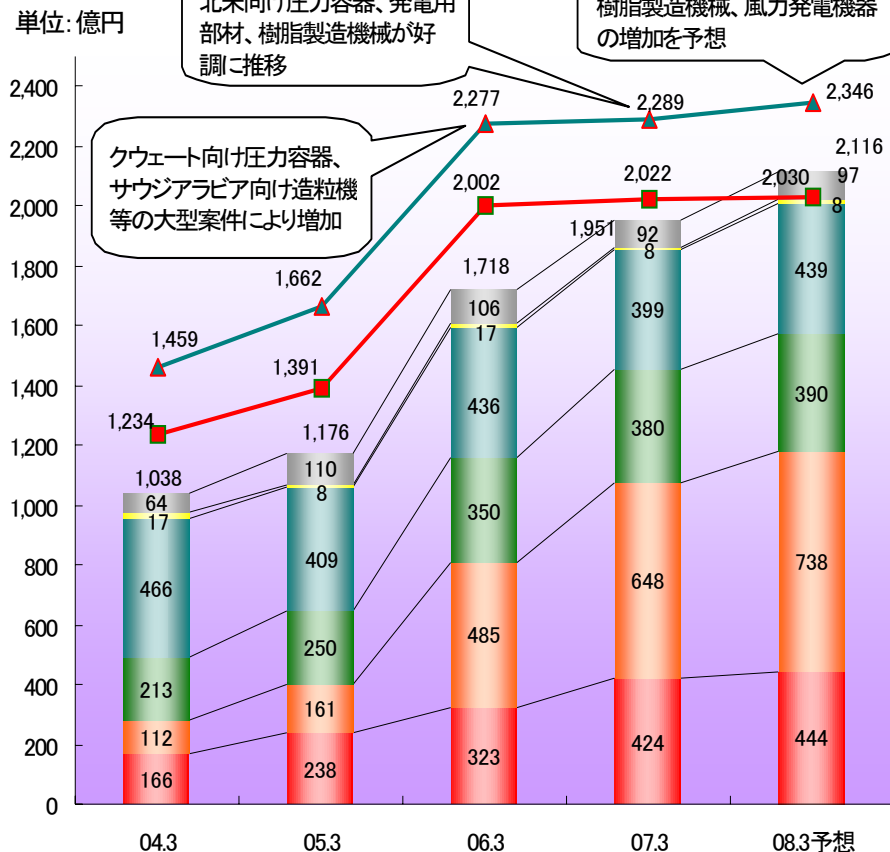
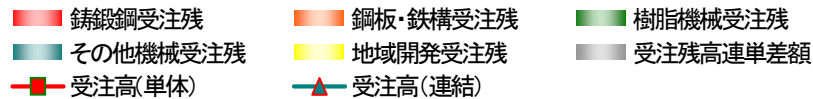
(単位: 億円)

売上高・営業利益		07.3 実績 (A)	08.3 予想 (B)	対前年 実績比 (B)/(A)	
機械製品関連	樹脂機械部門	547	620	113.3%	
	その他機械部門	466	385	82.6%	
	(単体部門計)	1,013	1,005	99.2%	
	連結会社他	(IT関連)	103	105	101.9%
		(その他)	162	150	92.6%
	連結売上高	1,278	1,260	98.6%	
営業利益		154	150	97.4%	

売上減少により減益

受注高		07.3 実績 (C)	08.3 予想 (D)	対前年 実績比 (D)/(C)	
機械製品関連	樹脂機械部門	577	630	109.2%	
	その他機械	429	425	99.1%	
	(単体部門計)	1,006	1,055	104.9%	
	連結会社他	(IT関連)	75	105	140.0%
		(その他)	160	166	103.8%
	連結受注高	1,241	1,326	106.8%	

# (12)08. 3期の受注高・受注残高と09. 3期の傾向



## 08.3期状況

### (受注)

#### ○鋳鍛鋼部門

発電用部材は引き続き堅調、大型の鉄鋼圧延用ロールの需要は増加

#### ○鋼板・鉄構部門

圧力容器、クラッド鋼板・鋼管の需要も引き続き堅調

#### ○樹脂機械部門

中国向けを中心に樹脂製造機械の受注が増加、射出成形機は国内自動車分野及びデジタル家電向けは堅調

#### ○その他機械部門

防衛関連機器は減少するものの、風力発電機器がプロジェクトの増加により伸長

→ 堅調なエネルギー関連部材、樹脂製造機械、環境関連機器の増加により07.3期並みの受注高を見込む

### (受注残)

#### ○08.3期末残高予想は前期末比165億円増加

(圧力容器、クラッド鋼板・鋼管が増加)

○07.3期末残高のうち09.3期以降に売上となる比率は30%を占める(発電用部材、製油所向け圧力容器、防衛関連機器が中心)

## 09.3期予想

エネルギー関連部材、樹脂製造機械の需要環境は引き続き好調を見込む

→ 増産・効率化の設備投資を積極的に実施し更なる受注の上積みに注力

# (13) 鑄鍛鋼部門: 旺盛な需要に対応するため

## 設備投資を継続

### 中計での取り組み

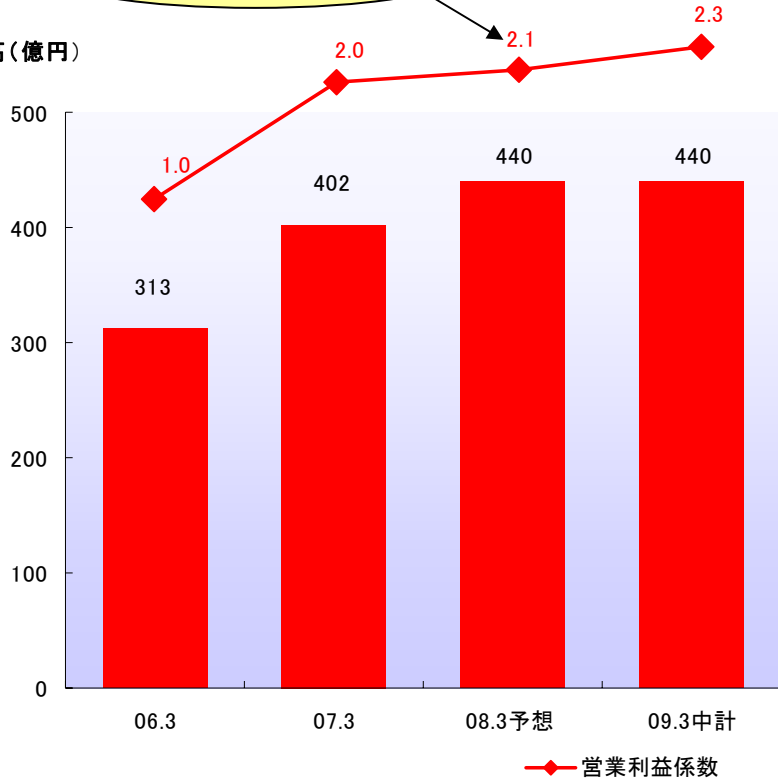
- ① 火力・原子力発電用部材等のニッチトップ・オンリーワン技術戦略の展開によるシェア拡大
- ② 需要環境に合わせた生産能力向上・効率化のための設備投資継続実施

鑄鍛鋼部門(単体)の売上高・営業利益推移

06.3期を1とした  
営業利益の係数

設備投資による減価償却

売上高(億円)



超大型厚板用ロールは10年先納期分の引き合いあり

### 08.3期状況

- 火力・原子力発電用部材の売上は増加の見通し  
→ 中国・米国の新設案件の活発な引き合い継続、  
確実な取り込みを図る
- 大型鉄鋼圧延用ロールは受注・売上とも好調

- 電子材料用素材は液晶テレビ等の増加により今後  
減少傾向



売上は増加するものの、増産・効率化の設備投資・減価償却方法変更による負担増加、原材料価格高止まりの影響により、08.3期の営業利益は07.3期比微増の見込み

### 09.3期予想

- 中国向け火力・原子力発電用部材は引き続き堅調に推移(欧米の火力・原子力案件も活発化)
- 鉄鋼圧延用ロールは国内・アジアを中心に大型品の需要が継続
- 原材料・原油価格の高止まりのほか、設備投資負担増加はあるものの、コスト改善等により08.3期比増益を目指す

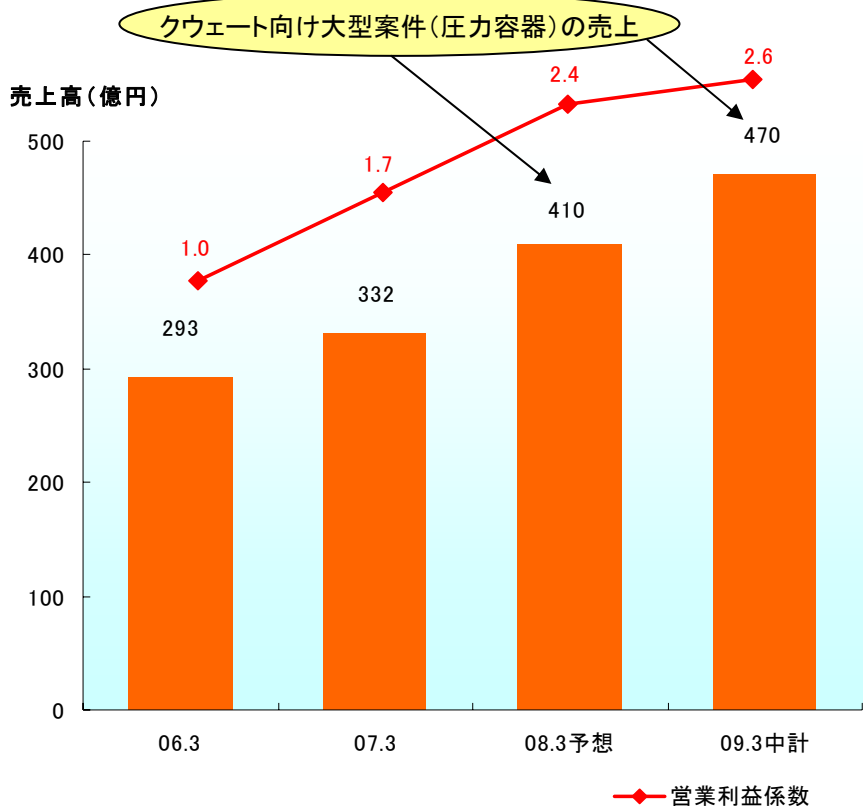
# (14) 鋼板・鉄構部門: エネルギー需要増大により 利益伸長を継続

## 中計での取り組み

- ① 需要動向に即した製造ライン・プロセスの構築
- ② 設備投資の継続実施による生産能力向上・効率化の推進

鋼板・鉄構部門(単体)の売上高・営業利益推移

06.3期を1とした  
営業利益の係数



## 08.3期状況

### 圧力容器

○ 原油高・原油使用量増加を背景とした製油所新設プロジェクトが継続→カナダのオイルサンド向け需要の一層の取り込み

### クラッド鋼板・鋼管

○ 中東での淡水化プラント用、石化プラント用クラッド鋼板の需要は依然として高水準を見込む

○ エネルギー使用量の増加・構造変革に伴い、天然ガス田向け鋼管の需要は引き続き好調に推移

売上増加、調達コストを反映した代価是正等により、08.3期の営業利益は07.3期比40%以上増加の見込み

## 09.3期予想

○ 重質油分解・脱硫用の中東向け、オイルサンド用の北米向け圧力容器の需要継続、06.3期受注のクウェート向け大型案件の売上

○ 天然ガス田用鋼管、中東向け淡水化プラント用及び石化プラント用鋼板の需要は堅調を予想  
→ 売上拡大、生産効率化、原材料価格を反映した代価是正の継続により08.3期比増収増益を目指す

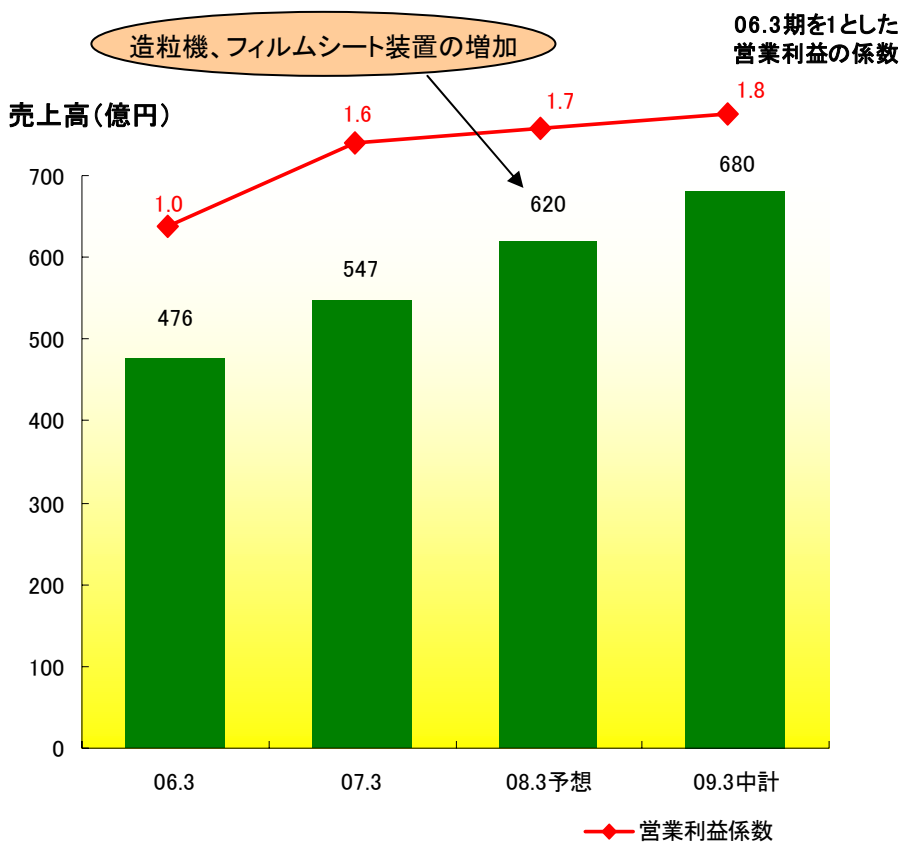


# (15) 樹脂機械部門: 世界的な樹脂使用量の拡大を背景に 売上・利益の拡大を目指す

## 中計での取り組み

- ① 差別化技術の強化とJSWブランドの浸透
- ② アライアンスによる新規事業・新製品育成
- ③ 光学液晶フィルム分野の強化
- ④ 小型射出成形機市場の攻略

樹脂機械部門(単体)の売上高・営業利益推移



## 08.3期状況

### 成形機

- 自動車及び薄型テレビ用の大型射出成形機の需要は堅調、中型機の生産設備増強を計画
- 自動車・二輪車向けプラスチックガソリンタンク用大型中空成形機は堅調に推移

### 樹脂製造・加工機械

- 造粒機は中東・中国向けを中心に好調な需要環境が継続
- 事業買収したフィルムシート装置の受注は大幅増加を見込む



調達品価格高騰、価格競争激化の影響を売上増加、生産性改善により吸収し、08.3期の営業利益は07.3期比6%以上増加の見込み

## 09.3期予想

- 自動車用大型射出成形機の需要は継続、小型射出成形機の受注拡大
  - 中東・中国を中心に樹脂製造機械の市場環境は堅調、高付加価値製品用のフィルムシート装置の需要取り込みを図る
- 売上拡大、製造コスト削減に注力し、08.3期比増収増益を目指す

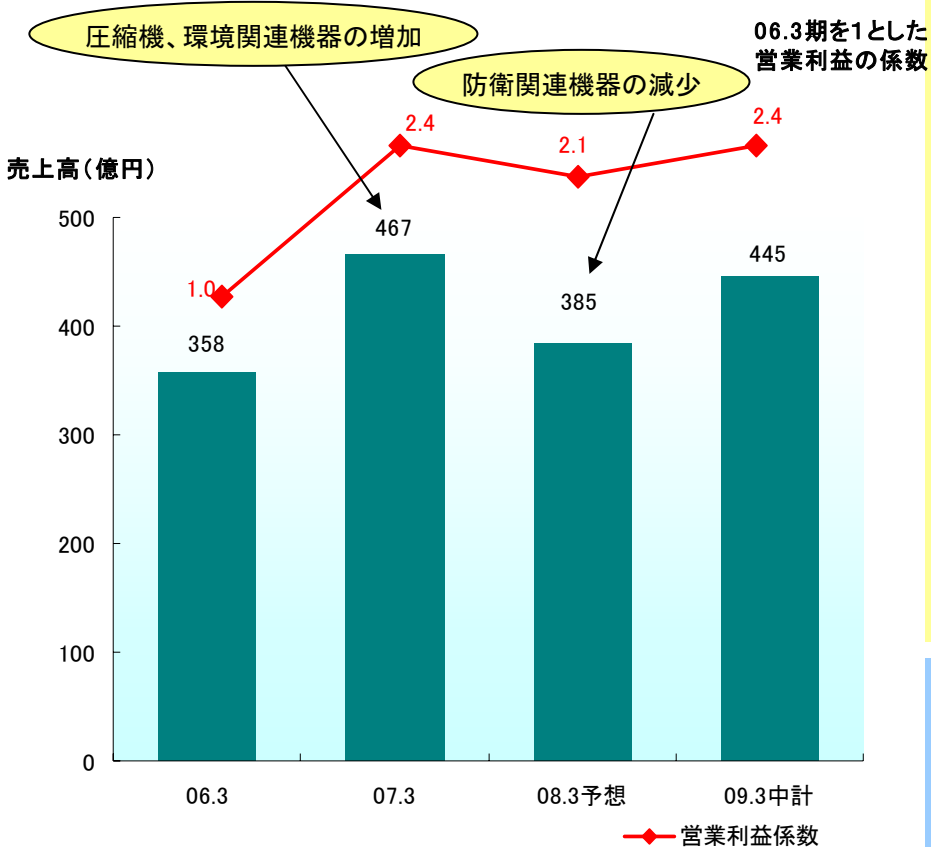
# (16) その他機械部門: 技術経営の推進により

## 新規事業分野の伸長

### 中計での取り組み

- ①新製品・新事業の早期投入と戦力化
- ②戦略的アライアンスによる事業拡大
- ③応用製品・周辺製品開発による市場拡大

### その他機械部門(単体)の売上高・営業利益推移



### 08.3期状況

#### IT関連機器

##### (レーザアニール装置)

- 中・小型ディスプレイ(携帯電話・デジタルカメラ)における高精細化投資は引き続き活発
- 高機能・高性能化による新市場・用途への適用に注力

##### (マグネシウム合金射出成形機)

- 中国・韓国での携帯電話マグネシウム化の一層の進展を予想
- 技術支援強化・サービス体制整備を進め、顧客満足度の向上を図る

#### 新規事業

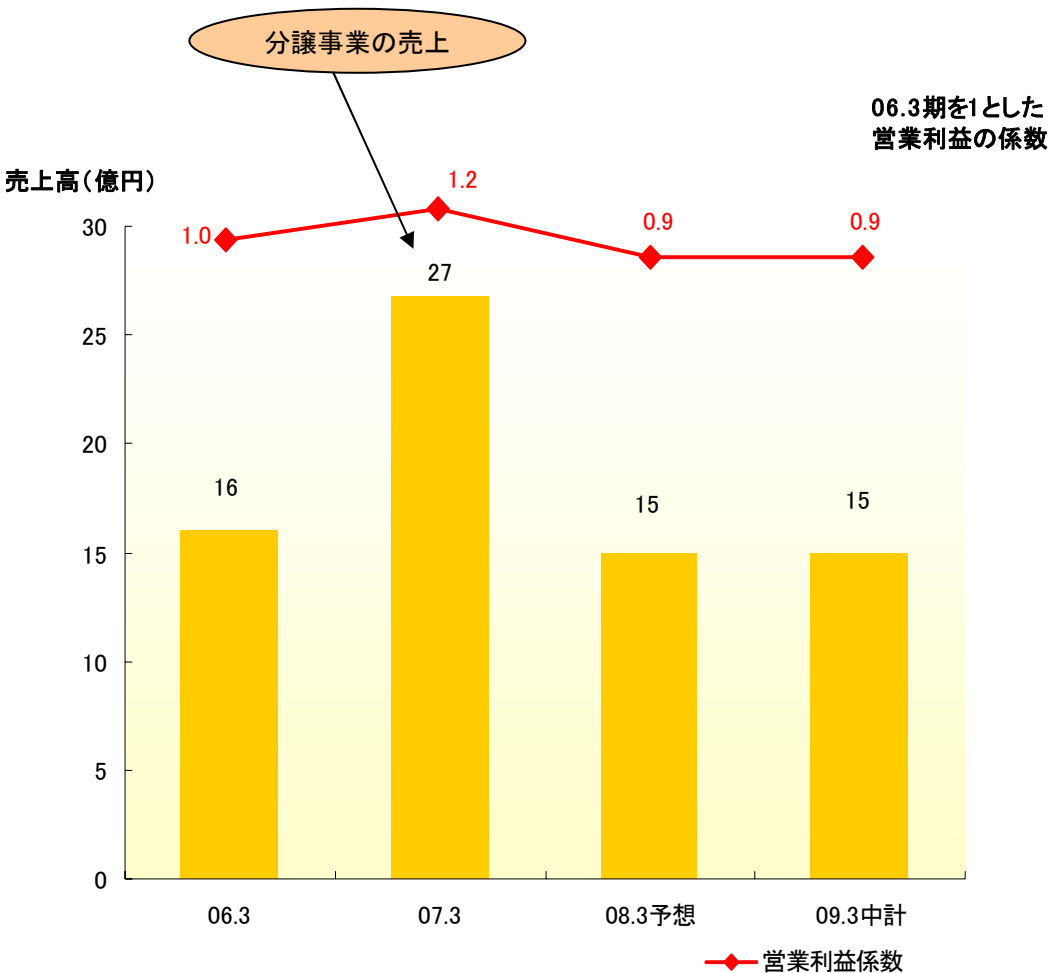
- 風力発電所の建設プロジェクトの増加に対応し、売上・利益の増加を見込む

IT関連機器及び防衛関連機器の減少により、08.3期の営業利益は07.3期比10%程度減少の見込み

### 09.3期予想

- 新機種の世界投入によりノート型パソコンの筐体薄肉化の需要掘り起こし
  - 風力発電機器の業容拡大
- 上記により07.3期並みの売上・利益を目指す

# (17) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用推進



○既存賃貸事業の運営・管理業務のレベルアップ、他社との協業による営業力強化

- ①安定的収益の確保
- ②キャッシュフローの創出



商業施設(北海道・室蘭弥生ショッピングセンター)

# 説明会補足資料

# 当社の沿革

1907年 北海道炭礦汽船株式会社と英国アームストロング・ウイトウォース会社とビッカース会社の3社共同出資により設立。資本金1,000万円。本社及び工場を北海道室蘭におく。

1920年  
～ 広島、横浜、東京に製作所を設置。

1938年  
1950年 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散。資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立。旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所および本店その他の営業所を継承して新発足。

1983年 横浜製作所を移転。デミング賞実施賞受ける。

1991年 広島製作所にて樹脂機械関連技術開発センター完成。

1992年 東京製作所跡地に府中インテリジェントパーク竣工

1994年 ISO9001・9002の認証を取得。

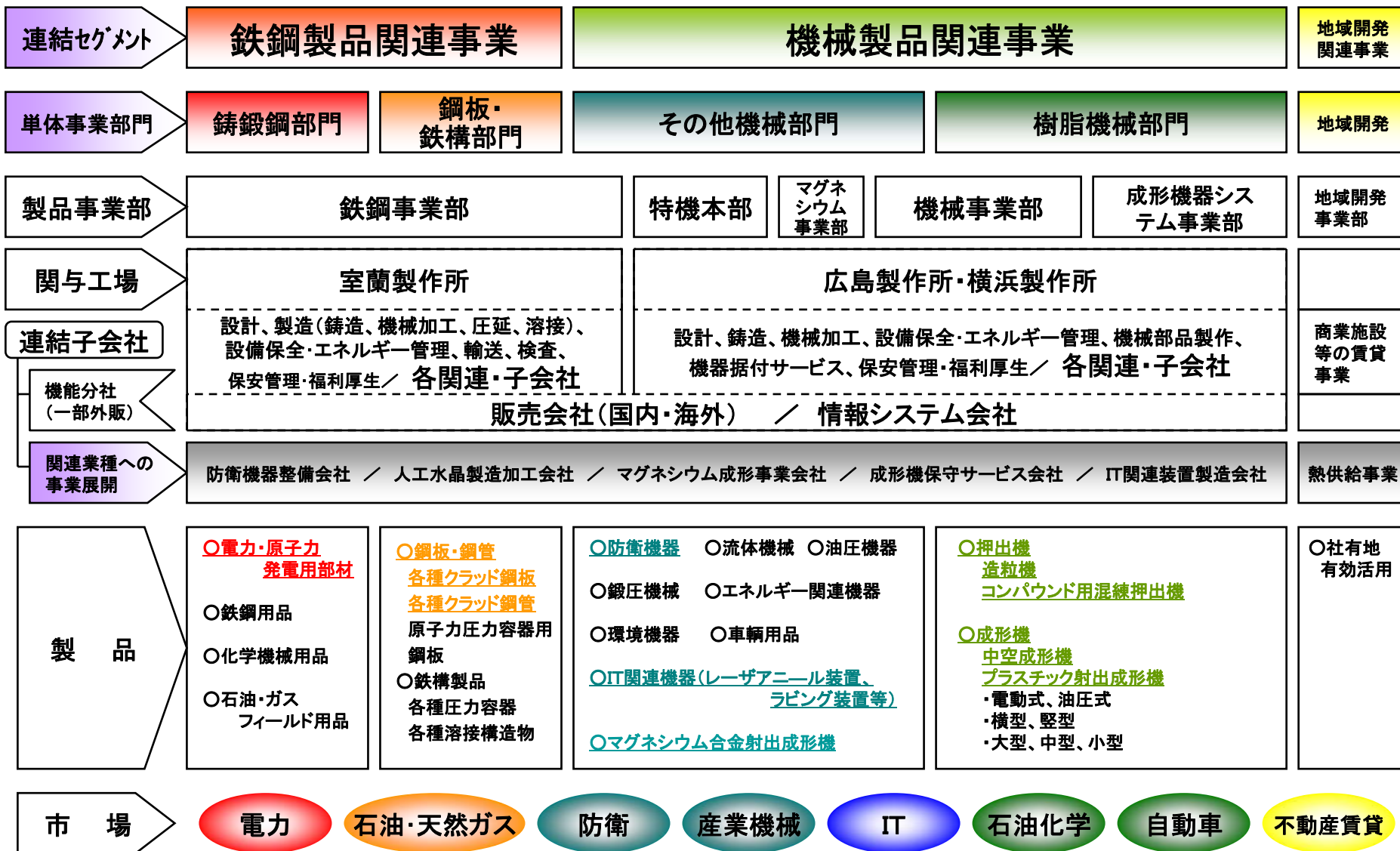
1998年 ISO14001の認証を取得。

2003年 室蘭製作所にて14,000トン鍛造プレス竣工。

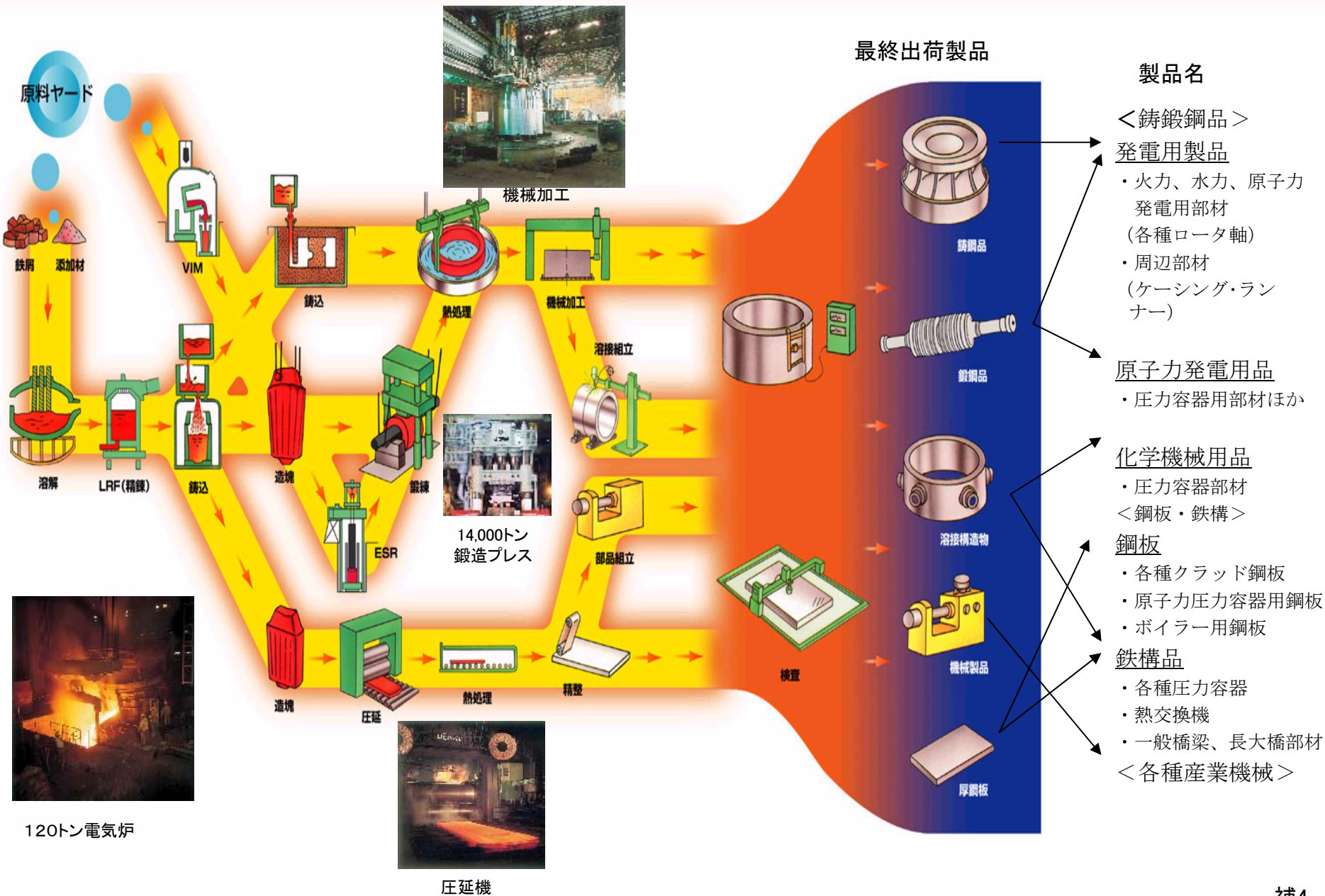
2007年 創業100周年を迎える。



# 事業部門の構成と当社製品群



# 鑄鍛鋼製品 鋼板・鉄構製品の製造工程 鋼づくりを原点とする製品群



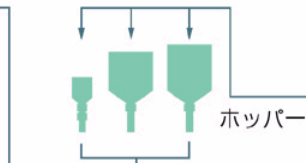
# 樹脂機械 樹脂製造機械から加工機械までのフルラインナップで市場拡大

## 樹脂機械(プラスチック関連技術・装置の流れ)



ポリマー重合リアクター  
(石油化学プラント)

超大型造粒装置「CMPシリーズ」



連続ミキサー  
造粒システム

ペレット

コンパウンド用押出機  
「TEXシリーズ」



高機能化

二軸混練押出機(TEX)

コンパウンド  
ペレット

超大型化

食品加工機



食品用押出機



組織化タンパク・スナック類

押出成形機



A-PETシート製造装置



紡糸・シート製品

中空成形機



NB150-2CCE連続多層中空成型機



ガソリントーク類

射出成形機



大型電動射出成形機  
J-ELIIIシリーズ(650)

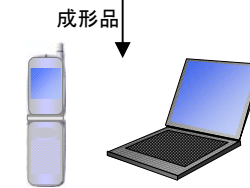


自動車用部品

マグネシウム  
射出成形機



新シリーズマグネシウム合金  
射出成形機(280トン)



通信機器  
情報機器

廃プラスチック減容・脱塩素処理設備・システム(リサイクル処理、固形燃料処理)



# 連結財務諸表の概要

(単位:百万円)

	03.3	04.3	05.3	06.3	07.3実績
<b>経営成績</b>					
売上高	134,268	136,309	158,274	173,353	207,138
営業利益	5,813	6,394	7,721	12,876	24,678
経常利益	3,000	4,558	6,210	11,770	23,459
当期純利益	831	2,000	3,284	6,586	12,515
一株当たり当期純利益	2.23	5.39	8.70	17.57	33.71
自己資本当期純利益率	1.6	3.7	5.9	10.7	17.7
売上高経常利益率	2.2	3.3	3.9	6.8	11.3
<b>財政状態</b>					
自己資本	50,880	54,540	57,461	65,853	75,621
自己資本比率	29.3	30.3	31.1	33.5	32.4
一株当たり純資産	137.00	146.86	154.59	177.19	203.09
<b>キャッシュフロー</b>					
営業活動によるキャッシュフロー	9,928	8,232	7,291	5,854	35,630
投資活動によるキャッシュフロー	△1,888	△2,791	13,611	△6,534	△9,679
財務活動によるキャッシュフロー	△5,283	△5,959	△11,918	△5,307	△16,750
現金及び現金同等物期末残高	15,613	15,142	24,111	18,179	27,472